

令和6年度 東彼杵町総合戦略推進会議

日 時 令和6年8月9日(金) 13:30～

場 所 東彼杵町総合会館教育センター大会議室

【次 第】

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議 事

(1) 第2期総合戦略の効果検証について

(2) 次期総合戦略の策定について

4. その他

(1) 企業立地促進事業について

(2) 地域資源を活用したキラリと輝くまちづくりプロジェクトについて

5. 閉 会

東彼杵町総合戦略推進会議委員名簿

任期: 令和4年3月17日～令和7年3月31日

種別	所属等	役職名	氏名	備考
産業	長崎県央農業協同組合	東そのぎ支店長	面 昭則	
	大村湾漁業協同組合	副組合長	濱田 徳雄	
	東彼商工会	事務局長	三尾 剛志	副会長
行政	長崎県県北振興局	次長	伊藤 幸繁	
	東彼杵町農業委員会	会長	西坂 秀徳	会長
大学	長崎国際大学国際観光学科	准教授	森尾 真之	
金融	(株)十八親和銀行	彼杵支店長	古川 茂	
	(株)十八親和銀行		吉田 浩史	
メディア	長崎新聞社	東彼支局長	佐崎 智章	
	元日経メディアプロモーション(株)		中野 隆志	
労働	東彼杵町役場職員組合	執行委員長	田島 信弘	
町民	東彼杵町区長会	会長	佐藤 和則	
	東彼杵町子ども子育て会議	副会長	明時 千枝子	
	東彼杵町民生児童委員連絡協議会	主任児童委員	木田 浩美	
	高齢者のための地域づくり・見守りネットワーク協議会	会長	下田 勝	
	彼杵婦人会	会長	高坂 由美子	
	千綿婦人会	会長	浦口 美代子	
	UI ターン者		野口 厚司	
	一社)東彼杵ひとこともの公社	代表理事	森 一峻	
	長崎県移住コンシェルジュ		澤登 舞	

第2期東彼杵町総合戦略



令和2年3月

長崎県 東彼杵町

1. 第2期東彼杵町総合戦略とは

東彼杵町は、第5次東彼杵町総合計画の「今を未来へ」を基本理念に、「小さくても、誇りを持って輝くまち」をめざしています。

5年前、人口減少に歯止めをかけるとともに、住みやすい環境づくりを行い「定住促進」や「地方創生」などに関連した施策を重点的に取り組むこととした「第1期総合戦略」を策定し、平成27年度（2015年度）から令和元年度（2019年度）までを計画期間として様々な取り組みを行ってきました。

5年前、45年後（2060年）の東彼杵町の人口は、3,388人まで減少すると予想されていました。

5年が経ち、その予想は123人減り、3,265人まで減少するとわずかに下方修正されています。

（国立社会保障・人口問題研究所推計値）

この度、第1期の計画期間が終了することから、第1期総合戦略の点検・評価を行い、継続した取り組みが重要との考えから、第2期総合戦略（令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年度））を策定しました。

2. 東彼杵町の目指す将来の人口

◆将来の目標人口

【数値目標】

●合計特殊出生率

令和12年の値を2.07

令和22年以降は値を2.43

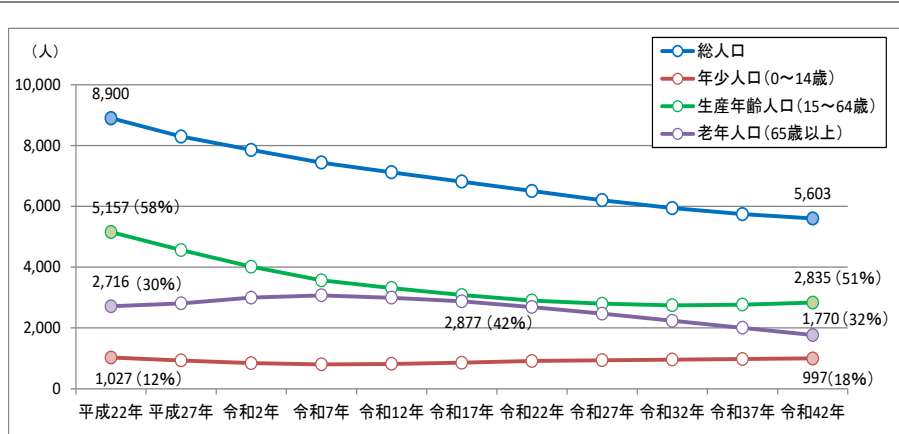
（アンケート結果による本町の希望出生率）

●社会増減

令和12年時点で均衡（社会増減0）

【目標人口】

5,600人<令和42年>



3. 東彼杵町が取り組む第2期総合戦略

基本目標1 東彼杵町にしごとをつくり、安心して働けるようにする

若者の転出抑制・UIJターン者の増加

○農林水産業や工業、商業など地域産業基盤の強化や新たな技術の導入などによる安定した雇用の場をつくとともに、人材の確保に取り組みます。

○農林水産業と観光産業が連携した体験型観光や地域資源を活用した起業などにより、新たな雇用の創出を目指します。

◆数値目標

指標	基準値（平成30年）	目標値（令和6年）
町民税（均等割）納税義務者数 （その他【年金・一時所得】の所得者を除く）	3,149人	毎年度 3,149人以上

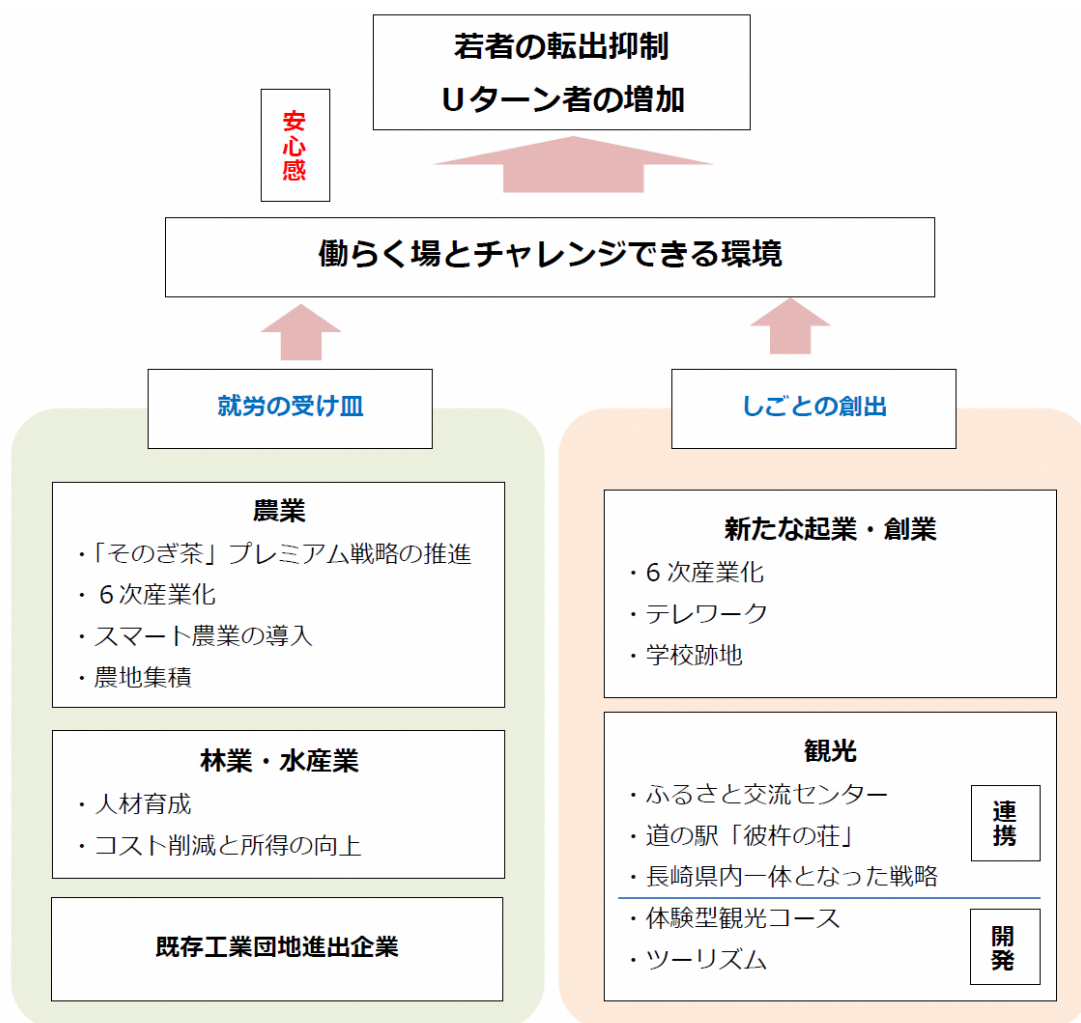
◆具体的な施策と主な事業

施策	主な事業
施策1-1 基幹産業である農業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> (1) 認定農業者、新規就農等の地域農業の担い手の確保と経営力強化及び育成支援 (2) 農産物の地産地消の推進及び販路拡大 (3) 農業の6次産業化や農商工連携の展開 (4) 日本型直接支払制度（中山間地域等直接支払・多面的機能支払・環境保全型農業直接支払）の推進 (5) 農作業の効率化・省力化に必要な環境整備を図り、機械利用組合等の設立や農作業受委託を活用した集落営農や法人化の推進 (6) 農地の集積、区画整理、耕作道路の整備推進 (7) 農業生産工程管理（GAP）の推進及び有機栽培の啓発 (8) 農を楽しむ人材の育成と町民農園の実現と利用の推進 (9) 耕作放棄地の現状の整理と活用方策の強化
施策1-2 豊かな資源を活かした林業・水産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> (1) 森林施業プランナーなどの人材育成を図り、木材生産コストの縮減と効率的な施業の推進 (2) 水産資源の維持管理及び海底耕うんの推進、漁場底質改善並びに漁業生産コストの軽減と漁家所得の向上
施策1-3 就労の受け皿となる商工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> (1) 企業の育成支援の充実 (2) 地元企業及び事業者等への事業支援及び環境整備
施策1-4 新たな起業・創業の支援	<ul style="list-style-type: none"> (1) 農林漁業との連携事業の推進 (2) 起業家やコミュニティビジネスの育成及び支援 (3) 新しい企業進出等への支援 (4) テレワークや副業、兼業等の多様な就業機会の創出 (5) 学校跡地の利活用による雇用創出と地域活性化
施策1-5 美しい景観を活かした観光産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> (1) 東彼杵町ふるさと交流センターの強化 (2) 体験型観光の資源の発掘、プログラム化の推進 (3) ツーリズムの推進 (4) 長崎県内一体となった観光戦略の推進 (5) 道の駅「彼杵の荘」を核とした観光、商工の活性化

◆重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値（平成 30 年）	目標値（令和 6 年）
新規就農者延べ人数（年間 1 名増） 認定農業者	5 名 1 0 4 名	1 0 名 1 0 0 名
林業事業体への施業集約化面積（間伐含む） 〈町森林整備計画伐採面積 年平均 50ha／年〉	33.6ha	50.0ha
漁業への新規就業者延べ人数	1 名	2 名
既存工業団地企業の雇用者数の拡大（100 名増）	523 名	623 名
事業承継支援制度活用への支援延べ件数	0 件	5 件
6 次産業化へ取り組む農家延べ戸数（※年間 1 戸の増）	4 戸	9 戸
新規起業件数（累計）（※年間 1 件の増）	1 0 件	15 件
観光客数	71,074 人	毎年度 90,000 人

◆東彼杵町の取り組みのイメージ



基本目標 2 東彼杵町への新しいひとの流れをつくる

移住促進・関係人口拡大

○地域経済に資する積極的な活用を図るためには、これらを線で結び面とし、体験を伴った滞在型観光の開発を目指します。

○増加する空き家を資源として空き家バンク制度の充実を図り、高い地域力を活かしてより一層の移住促進を図るほか、伝統芸能、ツーリズム、道の駅などを活用した交流の促進を図ります。

○地域資産を磨きあげ、町外のひとが訪れたいまちを実現することで、関係人口や交流人口を拡大し、町外でも東彼杵町の名前が認知されるようなまちを目指します。

◆数値目標

指標	基準値（平成 30 年）	目標値（令和 6 年）
転出超過数 ⇒ 削減	67 人	43 人

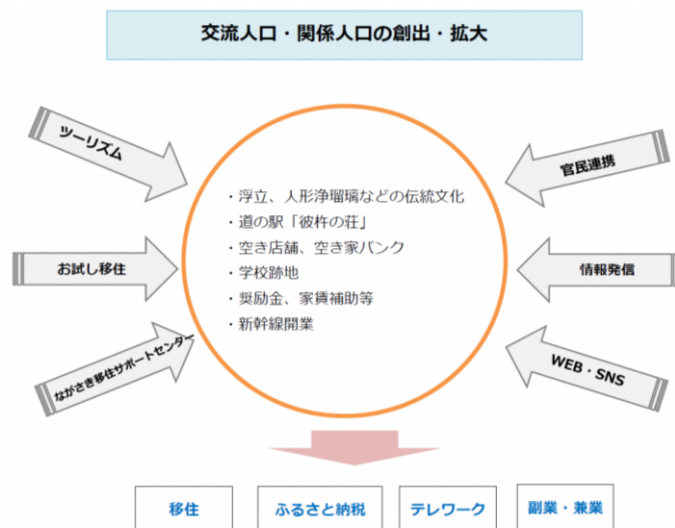
◆具体的な施策と主な事業

施策	主な事業
施策 2 - 1 移住者の受け皿となる住宅の確保	<ul style="list-style-type: none"> (1) 空き家バンクの推進 (2) 空き家活用管理民間団体の組織化【新規】 (3) 住宅用地貸付・譲与 (4) 公営住宅の整備 (5) 若者層や子育て世帯等の移住、定住支援
施策 2 - 2 様々な体験を通じた移住希望者への魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> (1) 定住相談窓口と定住関連情報発信体制の整備、充実 (2) 一流の田舎磨きと情報発信のための交流事業の推進 (3) ツーリズムをベースにした都市住民との移住交流の促進 (4) つながる、参加したくなるまちづくり活動の推進 (5) 東彼杵町の魅力を再認識及び発信する事業の推進
施策 2 - 3 まちの魅力を活かした交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域の特性、魅力を活かした交流の推進 (2) 重点道の駅事業の推進と道の駅「彼杵の荘」を核とした交流人口の拡大 (3) 既存施設、空き店舗、空き家等を活用した小さな拠点づくり (4) 長崎県と連携した日本版 C C R C の検討 (5) 新幹線開業を活用した地域活性化推進【新規】

◆重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値（平成 30 年）	目標値（令和 6 年）
空き家バンク登録件数（※年間 8 件増）	60 件	100 件
町の魅力情報発信による SNS 等発信件数（年間） （町 F B、ちえのわまちのわ編集部インスタ、ふるさと交流センター F B 等）	212 件	250 件
お試し住宅の利用者数（累計）（※年間 10 名の増）	53 人	103 人
歴史民俗資料館「彼杵の荘」来場者数	9,157 人	毎年度 10,000 人
歴史公園「彼杵の荘」及び道の駅「彼杵の荘」来客数 （毎年度 8,000 人増）	430,309 人	470,309 人

◆東彼杵町取り組みのイメージ



基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

少子化対策・子育て支援の充実

- 高い地域力を活かした子育て支援や教育支援によって子育てしやすい環境をつくります。
- 世代や性別、国籍など様々な立場を超えて、誰もが安全で安心して住みたくなるまちを実現し、子育て世帯に選ばれる、住みたい・住み続けたいまちづくりを目指します。
-

◆数値目標

指標	基準値（平成30年）	目標値（令和6年）
合計特殊出生率 ⇒ 改善	1.34	毎年度 1.79

◆具体的な施策と主な事業

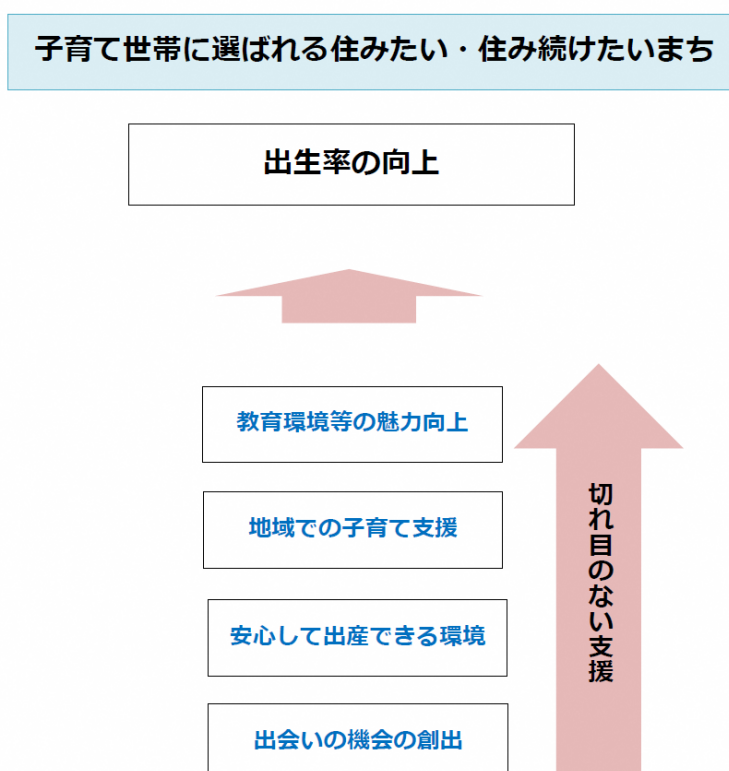
施策	主な事業
施策3-1 地域力を活かした出会いの機会の創出	(1) 結婚活動支援 (2) 結婚相談、縁結び隊などの支援体制の整備
施策3-2 安心して出産できる環境整備	(1) 不妊治療費の助成 (2) 安心して妊娠・出産を迎えるための母子保健及び福祉サービスの情報提供、紹介、相談 (3) 出産に伴う経済的負担の軽減
施策3-3 地域で子どもを育てる取組の支援	(1) 児童虐待の防止と総合支援 (2) 乳幼児及びその保護者の相互交流の場の提供、子育て情報の提供・助言 (3) 家庭と地域の交流の場の推進 (4) 放課後子ども教室などを活用した世代間交流や、体験の場の提供 (5) ボランティア活動の推進と充実 (6) 各種団体等の支援や指導者の育成と確保

	<ul style="list-style-type: none"> (7) 地域との交流活動などの多様な体験活動の推進 (8) 読み語り活動を通じた心を育てる教育の充実 (9) 地域に根ざし開かれた学校環境づくりの推進 (10) 栄養教諭を活用し給食及び食育指導の推進 (11) 発達障害児への早期対応、療育の推進 (12) 各関係機関との連携強化 (13) 子育て支援サービスの充実 (14) 子育てに伴う経済的負担軽減の推進 (15) 教育環境の整備推進 (16) 特別な支援を要する児童の早期療育や各種サービスの充実 (17) 新規保育士の宿舍経費に対する支援（新規）
施策 3 - 4 教育環境等の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣の育成を目指し、家庭教育講座などの充実推進 (2) 教育の情報化の推進【新規】 (3) 学力向上対策の情報共有推進 (4) 学校経営の効率化の推進 (5) 人権教育の推進

◆重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値（平成 30 年）	目標値（令和 6 年）
結婚活動新規支援者数（累計）（※年間 3 名の増）	5 名	20 名
出生数	40 人	56 人
地域参加型学校行事の実施回数	6 回／年	9 回／年
全国学力、学習状況調査全国平均値以上の割合	50%	80%以上

◆東彼杵町の取り組みのイメージ



基本目標 4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしをまもるとともに、地域と地域を連携する

町民参画のまちづくり・安心安全なまちづくり

- 生活サービス支援や小さな拠点をつなぐ公共交通のあり方などについて、地域ごとに整備していくとともに、町全体としては、交通環境充実や災害・防災対策の整備など、地域の活性化のための環境整備を図ります。
- 町民との協働によるまちづくりや官民連携・広域連携を強化し、持続可能な地域社会の形成を目指します。

◆数値目標

指標	基準値（平成 30 年）	目標値（令和 6 年）
集落内における問題意識度 ⇒ 改善	△0.39	△0.39 以下

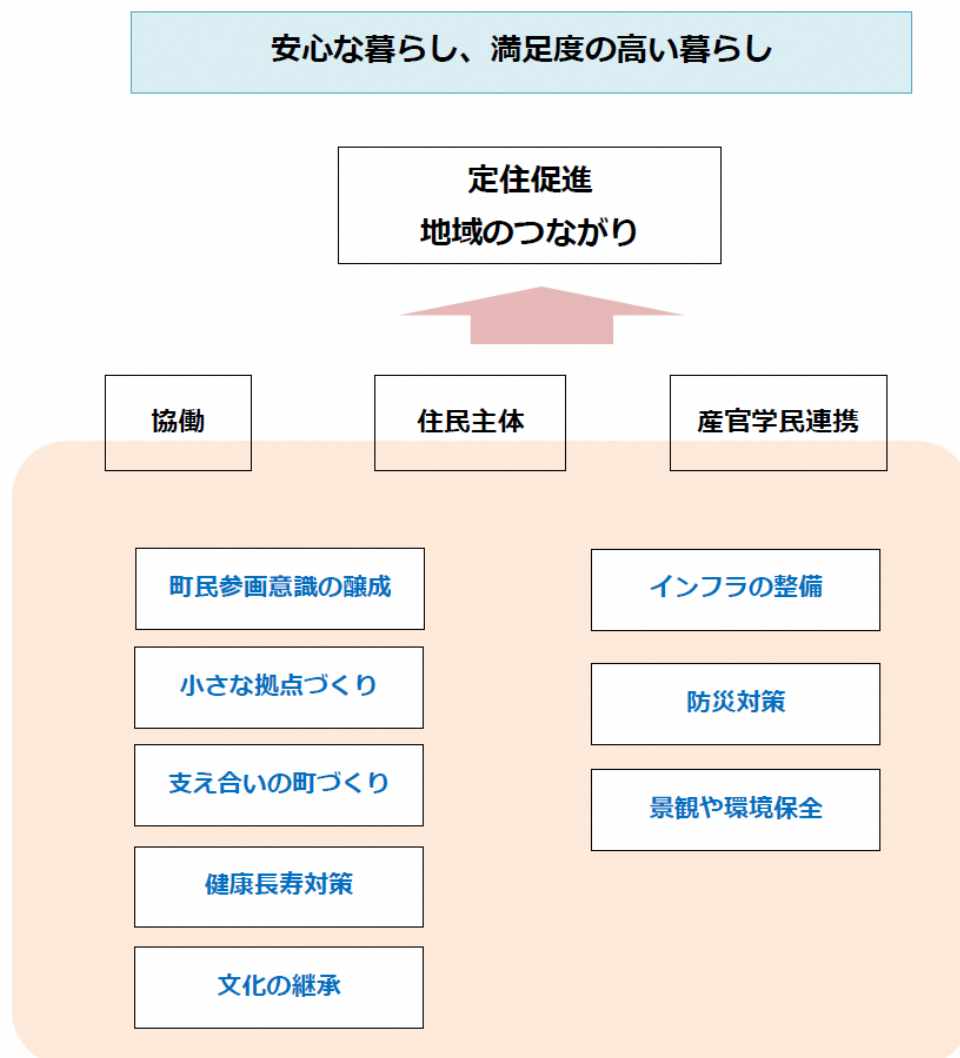
◆具体的な施策と主な事業

施策	主な事業
施策 4 - 1 町民の声が生きるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) 町民参画の意識醸成、参加促進のための情報発信 (2) 本町が抱える課題や資源の抽出とアイデアを生み出す場の創出
施策 4 - 2 将来にわたる安心の提供	<ul style="list-style-type: none"> (1) 安全安心な市街地づくり・安全な歩行者空間の確保 (2) 町営住宅の維持補修、建替え等の適切な管理計画の推進 (3) 火災や災害等から町民の尊い生命と財産を守るために消防体制の維持・充実 (4) 地域防災体制の充実や防災意識の高揚 (5) 地域振興や地域活性化に寄与する学校跡地の利活用 (6) 健康長寿対策の推進（新規） (7) 支えあいによる町づくりの推進
施策 4 - 3 満足度の高い暮らしの提供	<ul style="list-style-type: none"> (1) 一般町道の維持改修を中心とした整備の推進 (2) 橋梁長寿命化の推進 (3) 地域高規格幹線道路「東彼杵道路」の早期実現 (4) 交通弱者の生活を支えるための効率的でかつ持続可能な公共交通の維持、向上 (5) ICTを活用した地域活性化の推進 (6) 持続可能な地域づくりのための「小さな拠点づくり」の推進 (7) WiFi アクセスポイントの整備
施策 4 - 4 美しい景観や環境保全、文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> (1) 町民意識の向上のための自然・環境学習の推進 (2) 自然環境保全を实践する人材の育成、支援 (3) 産官学民連携したまちぐるみの自然環境保全の推進 (4) バイオマス推進計画に基づく事業推進 (5) 景観法等に基づく景観形成の推進 (6) 町民と協働した文化の保存、継承、活用の推進 (7) 町内の貴重な資料の収集と有形無形文化財の保存の推進と支援団体の活動推進 (8) 文化イベント、民間主体の企画展示等の開催による人々の交流の場の拡充

◆重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値（平成 30 年）	目標値（令和 6 年）
まちづくり活動団体数（累計）（※年間 1 団体の増）	11 団体	16 団体
町内での火災発生件数の抑制（累計） （※年間 3 件以下）	5 件	15 件以下
防災情報戸別受信機設置世帯数	707 世帯	900 世帯
小さな拠点づくり計画新規策定数	1 件	1 件
公共施設のフリーWiFi アクセスポイントの設置数	6 施設	11 施設
環境保全、文化振興等に取り組む団体数	14 団体	18 団体

◆東彼杵町の取り組みのイメージ



第2期東彼杵町総合戦略 庁内検証概要

【評価基準】

S：目標値以上達成（達成度 100%超） A：目標値達成（達成度 100%）、
 B：概ね目標達成（達成度 80%以上） C：やや目標達成（達成度 51%～79%）、
 D：目標達成困難（達成度 50%以下）

（1）基本目標ごとの数値目標の達成状況

基本目標	指標	基準値 H30	目標値 R6	現状値 R5	評価
1 東彼杵町にしごとをつくり、安心して働けるようにする	町民税（均等割）納税義務者数（その他【年金・一時所得】の所得者を除く）	3,149 人	毎年度 3,149 人 以上	2,982 人 (94.7%)	B
2 東彼杵町への新しいひとの流れをつくる	転出超過数	67 人	43 人	-18 人 (354.2%)	S
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率	1.34	毎年度 1.79	1.42 ^{※1} (79.3%)	C
4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしをまもるとともに、地域と地域を連携する	集落内における問題意識度	▲0.39	▲0.39 以下	▲0.49 ^{※2} (-15.4%)	D

※1：最新の実績値は2年前のものとなる。（毎年12月以降に把握可能）

※2：令和6年度実施のアンケート調査より

（2）基本目標ごとの重要業績評価指標（KPI）の達成状況

評価基準		S	A	B	C	D
1 東彼杵町にしごとをつくり、安心して働けるようにする	9件	3件	0件	2件	2件	2件
2 東彼杵町への新しいひとの流れをつくる	5件	2件	0件	2件	1件	0件
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	4件	0件	0件	1件	2件	1件
4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしをまもるとともに、地域と地域を連携する	6件	0件	2件	2件	1件	1件
合計	24件	5件	2件	7件	6件	4件

(3) 施策の取り組み状況

基本目標 1 東彼杵町にしごとをつくり、安心して働けるようにする

将来にわたって働ける環境を維持していくことが、若者の転出抑制と UIJ ターンの増加につながるという考え方のもと、農林水産業や商工業などの安定した雇用の場をつくることで、就労の受け皿を確保するとともに、起業・創業やテレワークの推進、観光業の振興を通して、仕事に関する挑戦や、多様な働き方の希望が叶うまちの実現に向けて取り組んでいます。

施策 1-1 基幹産業である農業の活性化

状況

- 農産物の地産地消や販路の拡大に向けて、長崎市や佐世保市、福岡市でのそのぎ茶や町産品の PR 活動やイベントの開催のほか、民間企業と連携した 6 次産業化による商品開発が進んでいます。
- 持続可能な農業の実現に向けて、新規就農者への支援やスマート農業の導入促進、農地の集約を推進しています。

課題

- さらなる知名度の向上に向けた戦略的な PR 活動の推進と関係人口の拡大
- 産業基盤の維持に向けた担い手の育成と継続支援

重要業績指標 (KPI)		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	評価
新規就農者延べ人数 (年間 1 名増)	目標値	6 名	7 名	8 名	9 名	10 名	S
	実績値	14 名 (233.3%)	20 名 (285.7%)	22 名 (275.0%)	25 名 (277.8%)		
認定農業者数	目標値	—	—	—	—	100 名	B
	実績値	93 名 (93.0%)	89 名 (89.0%)	89 名 (89.0%)	90 名 (90.0%)		

施策1-2 豊かな資源を活かした林業・水産業の活性化

状況	●林業・水産業に携わる人材の育成と併せて、林業・漁業環境の維持に向けた森林の集約化や種苗放流を行っています。
課題	●担い手不足の進行 ●効率的な施業の推進や漁場環境の維持

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
林業事業者への施業集約化面積 (間伐含む) <small>(町森林整備計画伐採面積 年平均 50ha/年)</small>	目標値	—	—	—	—	50.0ha	C
	実績値	31.1ha (62.2%)	31.8ha (63.6%)	32.1ha (64.2%)	7.0ha (14.0%)		
漁業への新規就業者延べ人数	目標値	—	—	—	—	2名	D
	実績値	1名 (50.0%)	1名 (50.0%)	1名 (50.0%)	1名 (50.0%)		

施策1-3 就労の受け皿となる商工業の振興

状況	●工業団地については、入居率が100%となっています。 ●県の事業を活用して、事業拡充の支援を行いました。
課題	●さらなる産業基盤の強化に向けた新規工業団地造成の検討 ●各事業所におけるECサイト（通信販売）の実施の拡大に向けた啓発

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
既存工業団地企業の雇用者数の拡大(100名増)	目標値	—	—	—	—	623名	B
	実績値	527名 (84.6%)	539名 (86.5%)	560名 (89.9%)	557名 (89.4%)		
事業継承支援制度活用への支援延べ件数	目標値	—	—	—	—	5件	D
	実績値	0件 (0%)	0件 (0%)	1件 (20.0%)	1件 (20.0%)		

施策1-4 新たな起業・創業の支援

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●町内の空き店舗の活用に向けた支援やビジネスプランコンテストの開催を通じて、町内における起業の促進に取り組んでいます。 ●町内での6次産業化の推進に向けて、地域内の農林漁業と起業・創業した事業所のネットワーク構築を進めています。 ●テレワーク導入に向けた環境整備の検討や学校跡地の活用に向けた検討を進めています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●町内での販路拡大と事業者間のネットワークの強化と拡大 ●さらなる起業しやすい環境づくりと支援の充実 ●多様な働き方の導入に向けた課題の把握や学校跡地の活用についての地域との協議

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
6次産業化へ取り組む農家延べ戸数(年間1戸の増)	目標値	5戸	6戸	7戸	8戸	9戸	S
	実績値	6戸 (120.0%)	12戸 (200.0%)	12戸 (171.4%)	13戸 (162.5%)		
新規起業件数(累計)(年間1件の増)	目標値	11件	12件	13件	14件	15件	S
	実績値	17件 (154.5%)	21件 (175.0%)	30件 (230.8%)	42件 (300.0%)		

施策1-5 美しい景観を活かした観光産業の創出

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●インバウンドの増加やコロナの規制緩和が進んだ影響で観光客も増加傾向となっていることから、東彼杵町ふるさと交流センターの機能強化を推進し、着地型観光の受け入れや道の駅でのイベント開催などを行っています。 ●体験型観光のモニターコースの立案や近隣自治体と連携した周遊機会の増加などに取り組んでいます。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅の有効活用 ●町内事業者との連携によるコンテンツ作成 ●リピーターの獲得

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
観光客数(毎年度90,000人)	目標値	90,000人	90,000人	90,000人	90,000人	90,000人	C
	実績値	27,146人 (30.2%)	30,069人 (33.4%)	53,427人 (59.4%)	62,638人 (69.6%)		

基本目標 2 東彼杵町への新しいひとの流れをつくる

東彼杵町の人口減少を抑制し、持続可能なまちづくりを進めていくためには、町外からの関係人口の拡大と移住促進が必要不可欠であるという考え方のもと、移住の受け皿となる居住環境の整備のほか、移住体験や相談の機会づくり、魅力的な地域づくりを通じた交流人口の拡大など、人がつながり、まちに興味を持ち、移住につながるまちづくりを推進しています。

施策 2-1 移住の受け皿となる住宅の確保

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●空き家バンクの登録推進や空き家等管理活用支援法人制度の活用の検討を行っています。 ●安定した居住環境の確保に向けて、町営住宅等の維持・管理を行っています。 ●若い世代の居住支援として新婚家賃補助制度の拡充を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●町外に所有者のいる空き家の登録推進や所有者の負担軽減 ●補助事業の周知

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
空き家バンク登録件数(年間8件増)	目標値	68件	76件	84件	92件	100件	B
	実績値	82件 (120.5%)	93件 (122.4%)	80件 (95.2%)	86件 (93.5%)		

施策 2-2 様々な体験を通じた移住希望者への魅力発信

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●移住に関する相談の受付やお試し住宅を活用した移住相談と体験を実施しています。 ●つながりの中で暮らすことができる東彼杵町の魅力の向上に向けて、まちづくり活動の支援や SNS での情報発信・PR 動画の作成に取り組みました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●移住希望者に対して魅力を発信していくための地域おこし協力隊や民間との連携強化 ●魅力ある地域づくりに向けたまちづくり団体へのフォローアップの継続

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
町の魅力情報発信による SNS 等発信件数(年間)	目標値	250件	250件	250件	250件	250件	S
	実績値	62件 (24.8%)	137件 (54.8%)	584件 (233.6%)	303件 (121.2%)		
お試し住宅の利用者数(累計)(年間10名増)	目標値	63人	73人	83人	93人	103人	S
	実績値	159人 (252.4%)	182人 (249.3%)	221人 (266.3%)	310人 (333.3%)		

施策 2-3 まちの魅力を活かした交流の促進

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●東彼杵町の歴史・文化の保全や情報発信に関する支援を行っています。 ●道の駅を中心とした交流の促進に向け、観光協会等と連携したイベントを開催しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●文化保全に関わるサポーターの確保 ●道の駅の幅広い活用の検討とルールづくり ●西九州新幹線の駅からの導線を考慮した町内周遊の促進と地域活性化

重要業績指標 (KPI)		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	評価
歴史民俗資料館「彼杵の荘」来場者数（毎年度 10,000 人）	目標値	10,000 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人	10,000 人	C
	実績値	7,927 人 (79.3%)	5,320 人 (53.2%)	6,144 人 (61.4%)	7,642 人 (76.4%)		
歴史公園「彼杵の荘」及び道の駅「彼杵の荘」来客数（毎年度 8,000 人増）	目標値	438,309 人	446,309 人	454,309 人	462,309 人	470,309 人	B
	実績値	306,033 人 (69.8%)	329,652 人 (73.9%)	364,488 人 (80.2%)	424,449 人 (91.8%)		

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

子育て世代の増加や出生率の向上に向けて、誰もが安心して子育てができる環境を整え、子どもとその保護者が地域のつながりの中で生き生きと暮らし、学べる環境づくりに取り組んでいます。

施策3-1 地域力を活かした出会いの機会の創出

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●長崎県と連携した婚活の取り組みを行っています。 ●結婚相談や縁結び隊など、地域力を活かした結婚・出会いの支援体制の整備を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●東彼杵町でのイベント開催 ●出会いを支援する担い手の活動促進

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
結婚活動新規支援者数 (累計) (年間3名の増)	目標値	8名	11名	14名	17名	20名	B
	実績値	9名 (112.5%)	11名 (100.0%)	16名 (114.3%)	16名 (94.1%)		

施策3-2 安心して出産できる環境整備

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●不妊治療に関する助成や出産祝金、育児報酬金の支給を行い、安心して子どもを産み育てる支援の充実を図っています。 ●子育て世代包括支援センターにおける子育て支援サービスの実施を通して、妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目ない支援体制の構築を進めています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●助成に対する町独自の上乗せと祝金や報酬金の継続した実施 ●県外など里帰り先でも支援事業が受けられる体制整備

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
出生数	目標値	—	—	—	—	56人	C
	実績値	29人 (51.8%)	37人 (66.1%)	33人 (58.9%)	30人 (53.6%)		

施策3-3 地域で子どもを育てる取組の支援

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代と地域とのつながりづくりに向けて、地域行事への参加促進や世代間交流の機会を設けています。 ●地域とともに歩む学校づくりに向けて、地域参加型の学校行事の実施や地産地消などの食育指導を推進しています。 ●子ども一人ひとりに応じた育て方を学び、安心して子育てができるよう、子育て支援サービスの充実や発達支援に関する支援、保育士の定着支援を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●積極的に子育てを支える地域の担い手の育成 ●こども会同士の交流など地域組織の維持に向けたネットワークの構築 ●安定した子育て支援サービスの提供

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
地域参加型学校行事の実施回数	目標値	—	—	—	—	9回/年	C
	実績値	2回/年 (22.2%)	3回/年 (33.3%)	6回/年 (66.7%)	6回/年 (66.7%)		

施策3-4 教育環境等の魅力向上

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習に関する活動支援や人権教育に関する講演会を実施しました。 ●学習教材へのICT機材やAIドリルの導入を行い、一人ひとりの学習状況にあった学びができる環境整備を進めています。 ●学校運営について、地域と協議する機会を設け、地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●AIドリルの家庭学習など幅広い活用 ●生涯学習に関する講座の充実・参加促進

重要業績指標 (KPI)		R2	R3	R4	R5	R6	評価
全国学力、学習状況調査全国平均値以上の割合	目標値	—	—	—	—	80%以上	D
	実績値	0% (0%)	0% (0%)	100% (125.0%)	20% (25.0%)		

基本目標 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしをまもるとともに、地域と地域を連携する

東彼杵町が将来にわたって持続可能なまちであるためには、町民の安全・安心な暮らしを支える取り組みを推進していくとともに、町民が主体となって地域の課題を考え、協働でのまちづくりを推進していく必要があるという考え方のもと、まちづくりにおける町民参画の促進や町内の生活環境や防災対策の充実、景観や歴史の保全に取り組んでいます。

施策 4-1 町民の声が生きるまちづくり

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地域が主体となった活動の促進に向けて、交付金の活用について周知を行っています。 ●総合計画策定に向けたワークショップの開催や、まちづくり研究会を実施しています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●交付金のさらなる活用 ●町内の意欲ある人への情報提供や大学と連携したワークショップの開催に向けた検討

重要業績指標 (KPI)		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	評価
まちづくり活動団体数 (累計) (年間 1 団体の増)	目標値	12 団体	13 団体	14 団体	15 団体	16 団体	C
	実績値	13 団体 (108.3%)	10 団体 (76.9%)	10 団体 (71.4%)	10 団体 (66.7%)		

施策 4-2 将来にわたる安心の提供

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●地域における消防・防災に関する備えの強化に向けて、避難所の備蓄や防災に関する啓発、訓練の実施に取り組んでいます。 ●誰もが健康で暮らし続けられるよう、健康づくりに関するイベントや取り組みの推進、健康アプリの周知を行っています。 ●地域の生活課題解決に向けて、生活支援コーディネーターによる課題の把握と解決に向けた協議を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●減少する消防団員の確保と負担の軽減 ●自主防災組織をはじめとした地域全体の防災意識の向上 ●健康づくりに関する啓発推進と、誰もが気軽に取り組める様々な機会づくり ●地域の課題を支え合いの力で解決できる仕組みづくり

重要業績指標 (KPI)		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	評価
町内での火災発生件数の抑制 (累計) (年間 3 件以下)	目標値	3 件以下	3 件以下	3 件以下	3 件以下	3 件以下	A
	実績値	6 件 (50.0%)	4 件 (75.0%)	4 件 (75.0%)	3 件 (100.0%)		
防災情報戸別受信機設置世帯数	目標値	—	—	—	—	900 世帯	B
	実績値	835 世帯 (92.8%)	827 世帯 (91.9%)	822 世帯 (91.3%)	826 世帯 (91.7%)		

施策4-3 満足度の高い暮らしの提供

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●デマンド交通の実証事業を行い、持続可能な公共交通網の構築に向け検討を行っています。 ●道路や橋梁の維持・管理を行っているほか、「東彼杵道路」の実現に向けた要望活動を行っています。 ●町公式 LINE の開設や行政手続きのオンライン化など、ICT 技術の導入による行政サービスの向上に取り組んでいます。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●委託料の拡大する町営バスなど、今後の効率的な移動手段の確保と運営体制の確立 ●電子申請の活用促進に向けた情報発信

重要業績指標 (KPI)		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	評価
小さな拠点づくり計画新規策定数 (累計)	目標値	—	—	—	—	1 件	A
	実績値	1 件 (100%)	1 件 (100%)	1 件 (100%)	1 件 (100%)		
公共施設のフリーWiFi アクセスポイントの設置数	目標値	—	—	—	—	11 施設	D
	実績値	5 施設 (45.5%)	5 施設 (45.5%)	5 施設 (45.5%)	8 施設 (72.7%)		

施策4-4 美しい景観や環境保全、文化の継承

状況	<ul style="list-style-type: none"> ●環境保全に関する意識啓発や環境に配慮した生活の実践に向けて、親子での水生生物調査やごみ巡回パトロール、太陽光発電や合併処理浄化槽設置に関する補助を行っています。 ●文化財の保存・継承に向けた取り組みとして、ウォーキングイベントや文化芸能発表会の開催、歴史公園での企画展の開催を行っています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●減少する参加者への対策 ●太陽光発電や合併処理浄化槽設置に関する補助制度の周知 ●破損した案内看板などの計画的な保全 ●文化継承に関する新たな担い手の育成と活動に関する補助の拡充

重要業績指標 (KPI)		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	評価
環境保全、文化振興等に取り組む団体数	目標値	—	—	—	—	18 団体	S
	実績値	15 団体 (83.3%)	15 団体 (83.3%)	15 団体 (83.3%)	20 団体 (111.1%)		

(4) 第2期東彼杵町総合戦略の総括

基本目標1 東彼杵町にしごとをつくり、安心して働けるようにする

- 農林水産業の活性化においては、人口減少が進むなかで新就農者数は目標を上回って増加するなど、取り組みの成果が現れています。一方で、認定農業者数の減少や漁業新規就業者数の伸び悩みなどの課題もあり、産業の基盤強化に向けて引き続き取り組んでいく必要があります。新規就業者や後継者の確保に取り組んでいくとともに、IT技術の導入や省エネ機械の導入などの効率化と省力化や、漁場や森林の環境整備などを進め、就業継続に向けた環境づくりに取り組んでいく必要があります。
- 農業用地に関しては、農地の集約化と見直しを進め、効率的に農業が営める環境づくりを進めるとともに、就農者だけでなく、町民農園や半農半Xなど、様々な人がそれぞれのかたちで農とふれあい、農とともにある地域の維持につなげていく必要があります。
- 商工業の活性化においては、新規企業件数が大幅に増加しているだけでなく、既存工業団地の起業における雇用者数も目標の約9割まで達しており、新たな産業基盤の要素として成長が進んでいます。アクセスのよい立地などを活かしながら、新たな企業の誘致に向けた検討や新規起業や継続に向けた支援、町内事業者のネットワーク化、UIJターンの推進などに取り組んでいく必要があります。
- 町内製品の魅力と消費の向上においては、6次産業化に取り組む農家が増加しているなど、気運の醸成が進んでいます。今後も、町内の様々な事業者とのつながりづくりを促進し、町全体の産業活性化につなげていく必要があります。また、そのぎ茶をはじめとする町内産品、都市圏でのPR活動やネット販売の拡大によるブランド化とPRによる町内外での消費促進に取り組んでいく必要があります。
- 観光業の活性化については、観光客数は目標値に達してはいないものの、新型コロナウイルス感染症の規制緩和に伴い増加傾向にあります。交流人口の拡大に向けて、民間事業者や地域、広域市町での連携を強化した受け入れ体制の整備や、東彼杵町ならではの魅力を活用した観光コンテンツの創出に取り組み、人の流れづくりと交流の促進を進めていく必要があります。

基本目標 2 東彼杵町への新しいひとの流れをつくる

- 居住環境の整備については、目標値である空き家バンクの登録数が令和4年度に減少しており、目標に達していない現状となっています。今後も民間と連携した空き家管理の推進など、空き家を活用できる環境づくりを引き続き進めていくとともに、公営住宅の公募や新たな居住環境の整備に向けた民間の適正な土地利用・宅地造成への支援を進めていく必要があります。
- 持ち家奨励金や結婚新生活支援事業補助金、若年層遠距離通勤応援金については、東彼杵町での定住支援策として利用が定着し始めています。今後も定住に向けた支援について、制度の維持と拡充に向けた検討が必要です。
- 移住に向けた魅力発信においては、SNSでの情報発信とお試し住宅の利用者数とともに、目標値を上回って推移しており、移住相談会や地域おこし協力隊と連携した町内案内の実施と併せて、実際に移住につながる事例も出てきています。今後も移住の促進に向けて、相談しやすく、移居前から町での生活が見える環境づくりを進めていく必要があります。
- 地域や町民のいきいきとした暮らしや、活動的な団体や事業者なども東彼杵町の魅力であり、移住の決め手となり得ることから、地域や民間の活動支援やイベントの実施を通じて、住んでみたい地域・魅力ある地域づくりを進めていく必要があります。また、地域での生活に関する暮らしのマニュアルづくりや、移住してきた人との交流機会づくりなど、移住者と地域が相互理解を深めるきっかけづくりが必要です。

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 結婚・出産支援においては、結婚活動新規支援者数は増加しているものの、出生数については目標値を下回っており、合計特殊出生率も目標値に届いていない状況となっています。一方で、子育て世代包括支援センターの各種実績は相談支援や訪問など、きめ細かな支援を展開しており、利用者数が増加しています。今後も、子育て世帯への支援の充実と、結婚・出産を望む町民への支援を継続していく必要があります。
- 子育て・教育環境においては、地域参加型学校行事の実施回数は、目標値に達しないものの増加傾向となっています。一方で、地域で子どもを育てる環境づくりにおいては、新型コロナウイルス感染症の流行による交流機会の減少や地域の高齢化によって、今後の活動機会の維持や担い手の育成が課題となっています。少子化の影響により、学校の生徒数も減少傾向となっていますが、今後も効率的な学校運営の実現と地域と協力した教育環境の構築によって、子ども一人ひとりに合わせた手厚い教育環境の確立に向けて取り組んでいく必要があります。
- 子どもたちが成長してからも、東彼杵町で暮らし続けてもらうために、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な能力などを育むキャリア教育の推進と併せて、まちへの愛着を育む郷土学習や東彼杵町でしか得られない学びの機会を充実させていく必要があります。

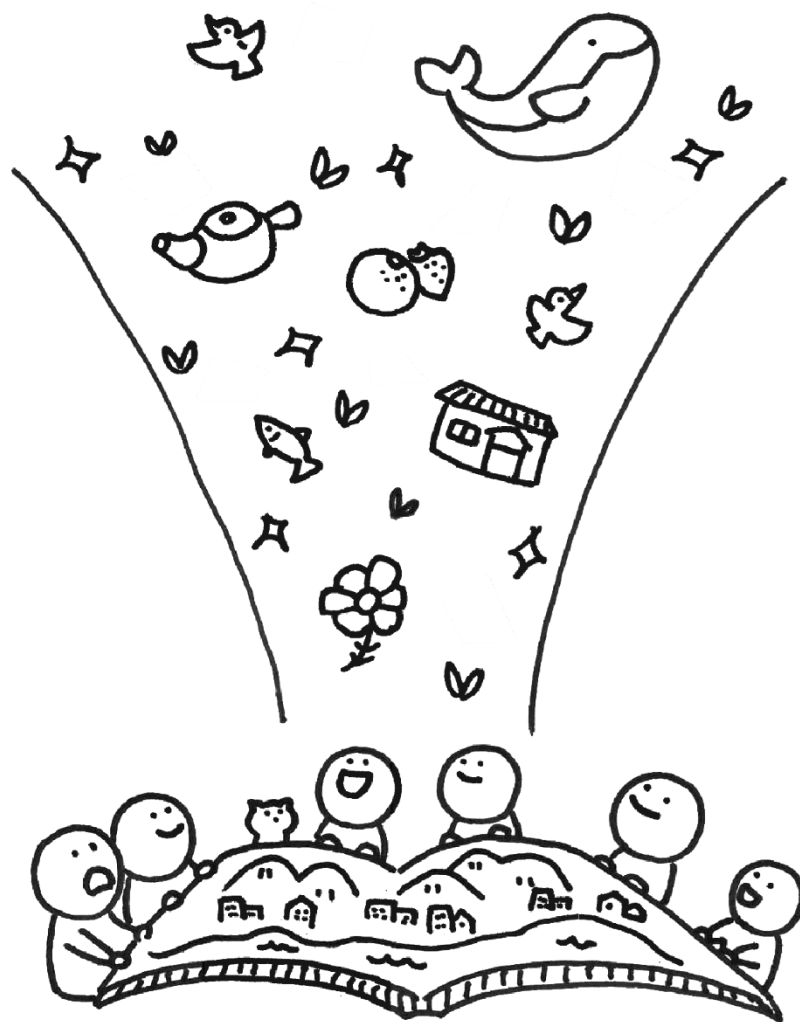
基本目標 4 時代に合った地域を作り、安心な暮らしをまもるとともに、地域と地域を連携する

- まちづくり活動団体については、令和3年度に減少しており、目標値に達していない状況となっています。交付金の周知や地域の課題を町民が考える機会を設けるだけでなく、コミュニティビジネスの創設に向けた支援や、地域と学校、町内外の事業者、有識者など、多様なつながりづくりを推進することで、町民主体の地域づくりを推進していく必要があります。
- 安心できるまちづくりにおいては、町内での火災発生件数の減少や防災情報個別受信機世帯数の増加など、取り組みが進んでいます。一方で消防団の団員減少が進んでおり、活動内容の見直しや効率化を検討し、負担の少ない活動を推進していくほか、町民に向けた防災意識の醸成を進めていく必要があります。また、町民一人ひとりの健康意識や支え合い意識の醸成を進め、つながりを持ちながら、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを推進していく必要があります。
- 町内の交通環境においては、道路や橋梁の計画的な維持と補修を推進しているほか、新たにデマンド交通の実証事業が始まるなど取り組みが進んでいます。今後も、町営バスの利用促進や地域や事業所と協力した輸送システムの検討など、持続可能な交通体系の確立に向けた取り組みが必要です。
- 持続可能なまちの実現に向けて、再生可能エネルギーの導入促進や省エネルギー対策などを推進していく必要があるほか、町民に対して意識啓発を進め、町全体として省エネや環境保全、カーボンニュートラルに取り組む機運を醸成していく必要があります。
- 小さな拠点づくり計画新規策定数やWI-FI アクセスポイントについては、横ばいで推移しています。今後は現状の把握を進め、適切な事業の推進に向けた方策を検討していく必要があります。また、満足度の高い暮らしの実現に向けて、行政サービスの利便性向上に向けたデジタル技術の導入を検討していく必要があります。
- 景観保全や文化継承に取り組む団体は、令和5年に増加し20団体となっています。景観や文化を維持し、東彼杵町の魅力として将来へつないでいくために、活動している団体に対する外部人材や専門機関のノウハウを活用した活動支援を行うほか、発表機会や町民と交流を深める機会を設けることで、町全体での理解を深めていく必要があります。

全体総括と次期計画の方針

- 第2期東彼杵町総合戦略においては、KPI（重要業績指標）が大きく目標値を上回った項目と、概ね目標達成となった項目で半数を超えており、計画全体として一定の成果が見られます。一方で、現状の数値からの減少に歯止めがかけられていない項目や実績に乏しいものもあり、成果や取り組み状況を見極めたうえで、第5次総合計画との整合性の確保や内容の見直し・検討を行い、効果的な施策となるよう、取り組みの絞り込みや拡充を行っていく必要があります。
- 次期計画においては、デジタル技術を活用し、地方創生の取り組みをより一層深化していく必要があります。デジタル技術の活用にあたっては、町民の生活利便性向上や行政業務の効率化の視点だけでなく、デジタル技術の活用が苦手な町民に格差が生じないための配慮や、デジタル技術の導入過程において職員に過大な負担がかからないこと、将来的に行財政運営に過度な負担が生じず、持続可能な行政運営につながるよう中長期的な視点での検討を行うことなど、格差や負担が生じない取り組みの推進に向けて、検討を進めていく必要があります。
- デジタル技術の導入と活用にあたっては、町民や地域、団体、町内事業者の理解と協働が不可欠であることから、関係者との協議や町民への説明の場を設けるとともに、計画においても必要に応じて見直しを行っていく必要があります。

東彼杵町 デジタル田園都市国家構想総合戦略 策定に向けて



令和6年6月

東彼杵町

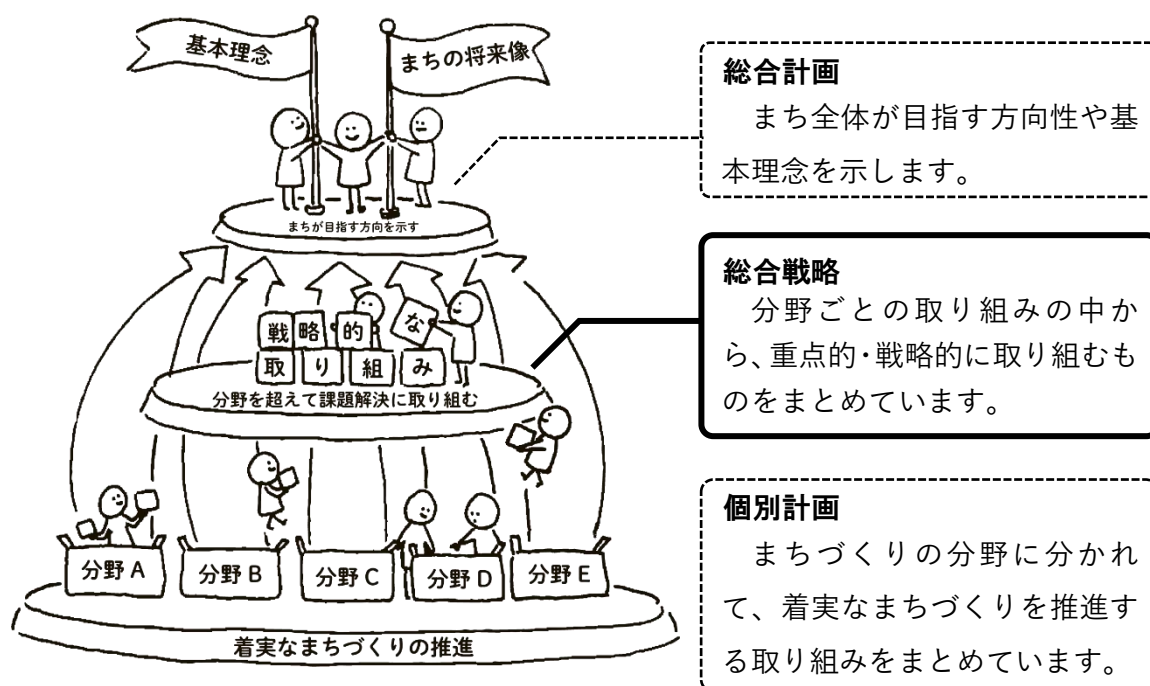
デジタル田園都市国家構想とは

デジタル田園都市国家構想は、地域において様々なデジタル化を推進し、デジタルを通じた多様なつながりを持ったり、課題を解決したり、住み続けたいまちづくりを実現させることで、どこに住んでいても誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる、心豊かに暮らすことができる地域を日本全体で目指す、国が進めている構想です。

これまでは、人口急減・超高齢化という大きな課題の解決に向けて取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を国・県・市町村で策定し、「雇用・就労」「移住・定住」「結婚・子育て」に関する戦略的な取り組みを進めてきました。

デジタル田園都市国家構想の実現のため、令和4年12月に国において、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（以下「総合戦略」という。）が策定されました。計画内では、これまでの取り組みにデジタルの力を加え進めることと、「デジタル基盤の整備」「デジタル人材の育成・確保」「誰一人取り残されないための取り組み」を進めていくことが定められています。

東彼杵町においても、次期総合戦略の策定に併せて、デジタル化に対応した「地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）」を再構築し、施策の方向性や必要な施策の内容等を盛り込み、策定を行うこととします。



国のデジタル田園都市国家構想総合戦略

デジタル田園都市国家構想総合戦略は、これまでの「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を基礎としながら、デジタル実装の視点を取り入れたものとなっています。東彼杵町における総合戦略においても、国の方向性及びこれまでの取り組みを継承・発展していくことを基本とします。

まち・ひと・しごと創生総合戦略（R2年度～R6年度）

基本目標

- 1 稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
- 2 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
- 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

横断的目標

- 1 多様な人材の活躍を推進する
- 2 新しい時代の流れを力にする

デジタル田園都市国家構想の実現に向け改訂

デジタル田園都市国家構想総合戦略（R5年度～R9年度）

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 地方に仕事をつくる | 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる |
| 2 人の流れをつくる | 4 魅力的な地域をつくる |

地方のデジタル実装を下支え

デジタル実装の基礎条件整備

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 デジタル基盤の整備 | 3 誰一人取り残されないための取組 |
| 2 デジタル人材の育成・確保 | |

総合計画との関係

東彼杵町においては、令和5年度に「ずっと住みたいまちづくり～子どもたちの笑顔のために～」を基本理念に、「小さくても、誇りを持って輝くまち」を目指す第6次東彼杵町総合計画を策定しています。総合計画はまちづくりの最上位計画であり、今後10年間の東彼杵町が取り組む方向性を定めています。

総合計画が10年間のまちの総合的な振興・発展を目的とするのに対し、総合戦略は40年後の人口の見通しを立てたうえで、今後5年間で取り組む必要のある人口減少への対策や地域経済の発展などの地方創生を目的とするものです。

総合戦略は総合計画のめざすべき将来像や取り組みにおける基本理念を共有しながら、まちづくりを戦略的に進める指針として位置づけます。

また、第6次東彼杵町総合計画においては、「まちづくりの分野共通の考え方」として、「DXの推進」を設定しています。総合戦略は、そのうち人口減少への対策や地域経済の発展などの地方創生に関する項目について、具体的なデジタルの実装に向けた取り組みを定めたものです。

計画の期間

総合戦略の計画期間は、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。なお、社会情勢の変化や施策の進捗など、状況に変化が生じた場合は必要に応じて見直すこととします。

踏まえるべき事項

国や都道府県の総合戦略の勘案

国の総合戦略の策定に当たっては、人口の現状及び将来の見通しを示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、かつ、その実施状況を検証するための数値目標等を設定することとなっており、地方版総合戦略においても同様に、「地方人口ビジョン」を踏まえるとともに、数値目標等を設定するよう努めることとされています。

これまでの地方創生の取り組みとの関係

これまで東彼杵町において取り組んできた地域の課題解決や魅力向上に向けた取り組みには、地域の活性化につながっている取り組みも多いことから、デジタルの力を活用しながら、取り組みを継承・発展させていくことが重要です。

地域ビジョンの再構築

地域が抱える社会課題の解決を図るため、自らの地域ビジョン（地域が目指すべき理想像）を再構築した上で総合戦略を改訂し、それらに基づく具体的な地方活性化の取り組みを推進していくことが重要です。

SDGs の推進

SDGs とは、平成 27(2015)年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載されている、令和 12(2030)年までに持続可能でより良い世界をめざすための国際的な目標です。SDGs は 17 のゴールと 169 のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを宣言しています。

SDGs は世界中の国だけではなく、県や市町村など地域においても自分事として取り組んでいく必要があります。総合戦略においても、SDGs の理念を踏まえながら、取り組みと関連付けることで、持続可能なまちづくりを推進していきます。

ウェルビーイングを踏まえた施策展開

ウェルビーイング（Well-being）とは、well（よい）と being（状態）からなる言葉で、こころの豊かさや持続的な幸せを表し、ウェルビーイングの実現は、身体や精神の健康が保たれるとともに、生活の基盤や安定した雇用が守られながら、一人ひとりが社会の中で最も自分にとって良好な状態で生きていることを表します。

今後、人口減少が進む中で、まちづくりにおいても、町内における安定した生活を送ることができる基盤を整備していくとともに、地域で暮らす一人ひとりが家庭や就労、教育などの様々な分野において、自らの希望にかなうよう生活の質を高め、社会の中でつながりを持ちながら生きていくことができる地域を作っていくことが重要視されています。

総合戦略においては、町全体で誰もが安心していきいきと暮らせる支援や環境の整備を進めていくことと併せて、ウェルビーイングの考え方を踏まえ、一人ひとりが実現したい生き方や人生の目標に向かって挑戦したり、それを応援する環境を整えることで、自らの人生をより良いものにしていけるまちづくりを推進していくこととします。

地域ビジョン設定に向けた特徴の整理

総合戦略における地域ビジョン（めざすべき理想像）の設定にあたって、東彼杵町の個性や魅力を整理します。

まち全体がつながりを持った地域性

東彼杵町は人口約 7,400 人と県内で 2 番目に人口の少ない自治体です。そのため町内で育つ子どもから大人まで、誰もが「顔見知り」であり、つながりを持っています。まちに対しても、多くの人が愛着を持って暮らしています。

アクセスのよい立地

町内には長崎自動車道「東そのぎ IC」や JR 大村線彼杵駅・千綿駅を有しており、長崎市や佐世保市、福岡市へもアクセスすることができます。また、長崎空港や西九州新幹線新大村駅も近く、多くの人が行き交う場所となっています。

豊かな自然と 基幹産業である農業

まちの半分以上を山林が占め、大村湾に面する東彼杵町は豊かな自然が魅力であり、それらを活かした米や茶、肉用牛、いちごやアスパラガス、みかんやびわなどの生産が基幹産業となっています。近年では「そのぎ茶」のブランド化も進んでいます。

起業・地域ビジネス発足など 新たな地域活性化に向けた流れ

近年では、U ターン・I ターンが増加しており、起業や出店も進んでいます。また、町内の工業団地についても多くの企業が進出しており、町内における幅広い働き方が選択できるようになってきています。

ゆとりある子育て環境

「地域で子どもを育てる」意識があるとともに、子育て支援も人口が小規模である利点を活かした柔軟な対応を行っています。

まちのブランド化の推進

「東彼杵町特別町民制度」など、離れていてもまちと関わりを持てる仕組みづくりや、農産物の販路拡大に向けた長崎市や福岡市での PR など、町外に向けてまちのブランド化を推進しています。

地域ビジョン（案1）

小さくても、誇りをもって輝くまち

東彼杵町には、豊富な自然資源やあたたかなコミュニティ、地域のつながりといった、人々の「こころの豊かさ」を育てる環境があります。一方で、アクセスの良さや地域における起業気運の向上といった、「日々を営む力」をまちの成長につなげる伸びしろも併せ持っています。

恵まれた地域の資源を強みとしながら、東彼杵町だからこそできる雇用の創出と暮らしの環境整備を推進するとともに、さらなる地域内外の人の流れをつくり、将来にわたって持続可能なまちを目指していきます。

こうしたまちの実現には、これまで東彼杵町において育まれてきた暮らしや営みの基礎を引き継ぎ発展させていくとともに、新たな産業や居住環境の整備といった取り組み、まちづくりの分野と連携した適切なデジタル技術の導入を推進することでまちの機能を効率化させ、コンパクトで暮らしやすく、住み続けたいと思えるまちづくりを推進していく必要があります。

総合計画の将来像「小さくても、誇りを持って輝くまち」を目指していくためには、東彼杵町で暮らす一人ひとりの暮らしの利便性や働く環境、子どもを産み育てられる環境を構築していくことも重要であり、関連が深いといえます。このことから、総合戦略においては、総合計画と共通の将来像を地域ビジョンとして設定するとともに、まち・ひと・しごとの創生とデジタル技術の活用の観点から戦略的なまちづくりを進め、まちがにぎわい、誰もがつながりのなかでいきいきと暮らすまちの実現に取り組みます。

地域ビジョン（案2）

まち全体でめざす姿

小さくても、誇りをもって輝くまち



総合戦略でめざす姿

つながりとしぎわいで人もまちも輝く

シンプル&コンパクトシティ

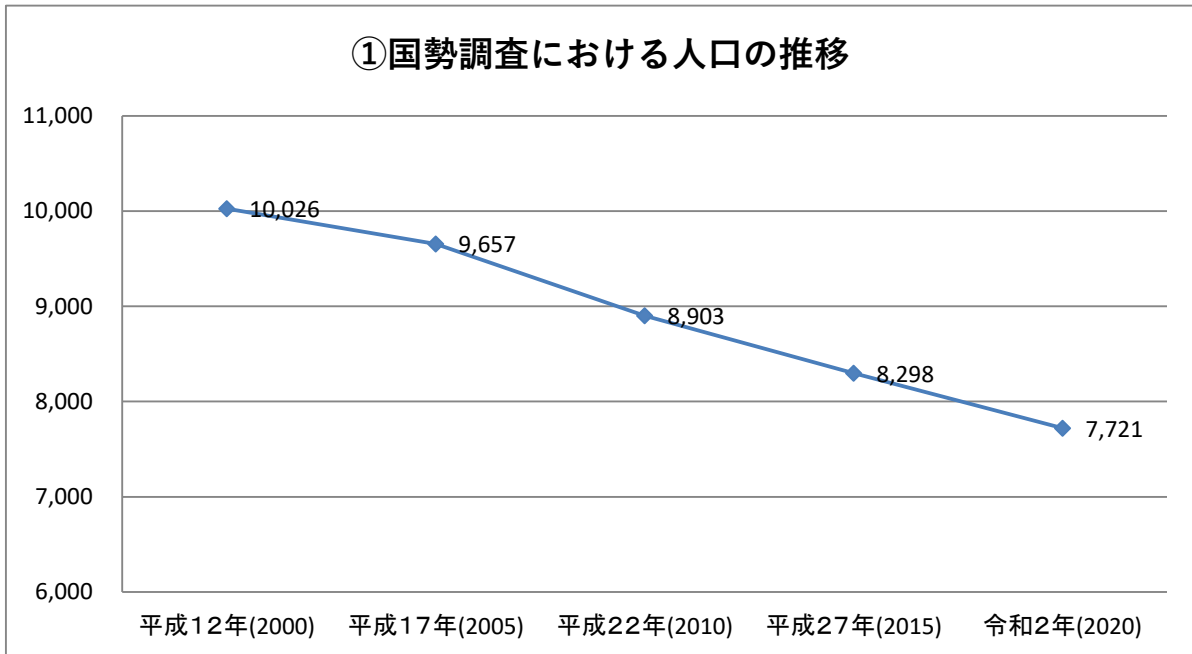
東彼杵町には、豊富な自然資源やあたたかなコミュニティ、地域のつながりといった、人々の「こころの豊かさ」を育てる環境があります。一方で、アクセスの良さや地域における起業気運の向上といった、「日々を営む力」をまちの成長につなげる伸びしろも併せ持っています。

恵まれた地域の資源を強みとしながら、東彼杵町だからこそできる雇用の創出と暮らしの環境整備を推進するとともに、さらなる地域内外の人の流れをつくり、将来にわたって持続可能なまちを目指していきます。

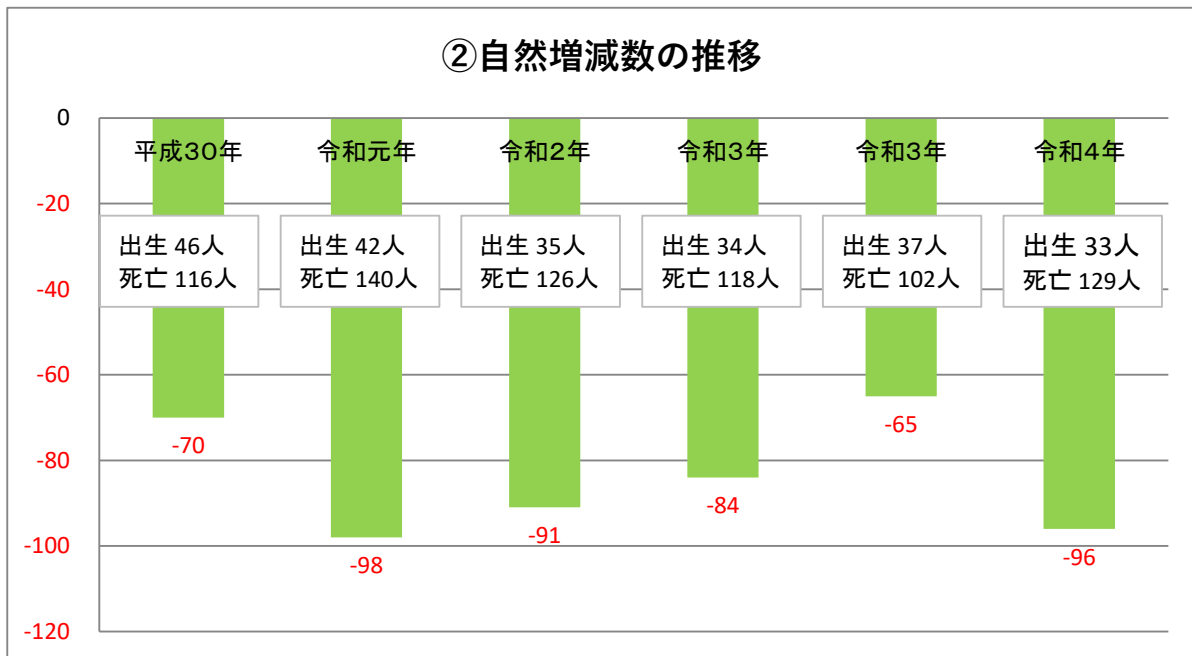
こうしたまちの実現には、これまで東彼杵町において育まれてきた暮らしや営みの基礎を引き継ぎ発展させていくとともに、新たな産業や居住環境の整備といった取り組み、まちづくりの分野と連携した適切なデジタル技術の導入を推進することでまちの機能を効率化させ、コンパクトで暮らしやすく、住み続けたいと思えるまちづくりを推進していく必要があります。

以上を踏まえて、戦略的なまちづくりを進め、まちがにぎわい、誰もがつながりのなかでいきいきと暮らすまちの実現を目指すために、「つながりとしぎわいで人もまちも輝くシンプル&コンパクトシティ」を地域ビジョンとして取り組んでいくこととします。

また、総合計画の将来像「小さくても、誇りを持って輝くまち」を目指していくためには、東彼杵町で暮らす一人ひとりの暮らしの利便性や働く環境、子どもを産み育てられる環境を構築していくことも重要であり、関連が深いといえます。このことから、総合戦略においては、総合計画の将来像も地域ビジョンとして設定することとします。

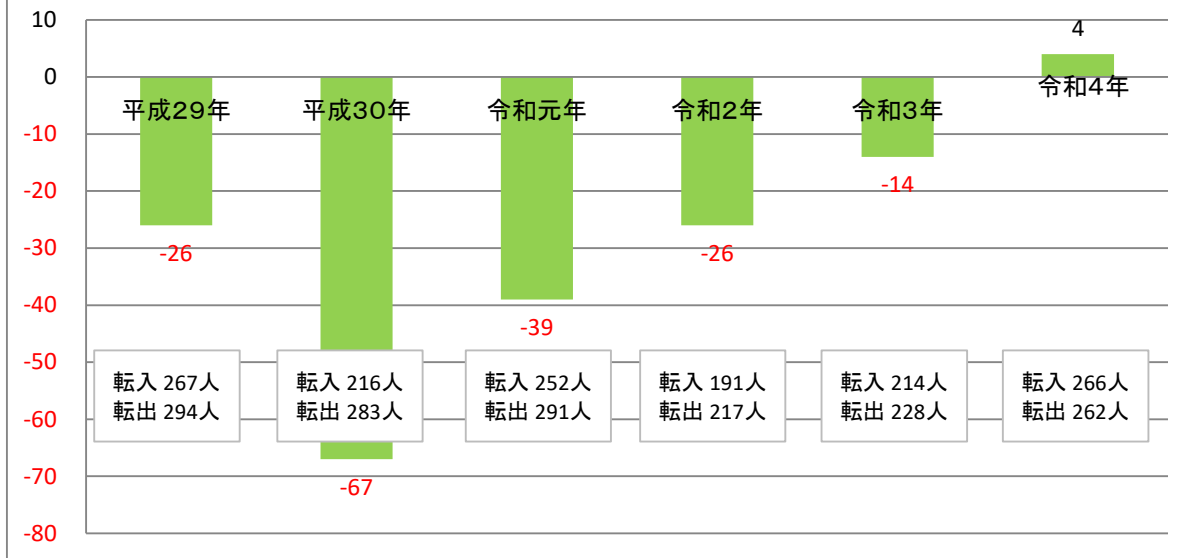


実施年	平成7年(1995)	平成12年(2000)	平成17年(2005)	平成22年(2010)	平成27年(2015)	令和2年(2020)
人口	10,349	10,026	9,657	8,903	8,298	7,721
前回からの増減	—	-323	-369	-754	-605	-577



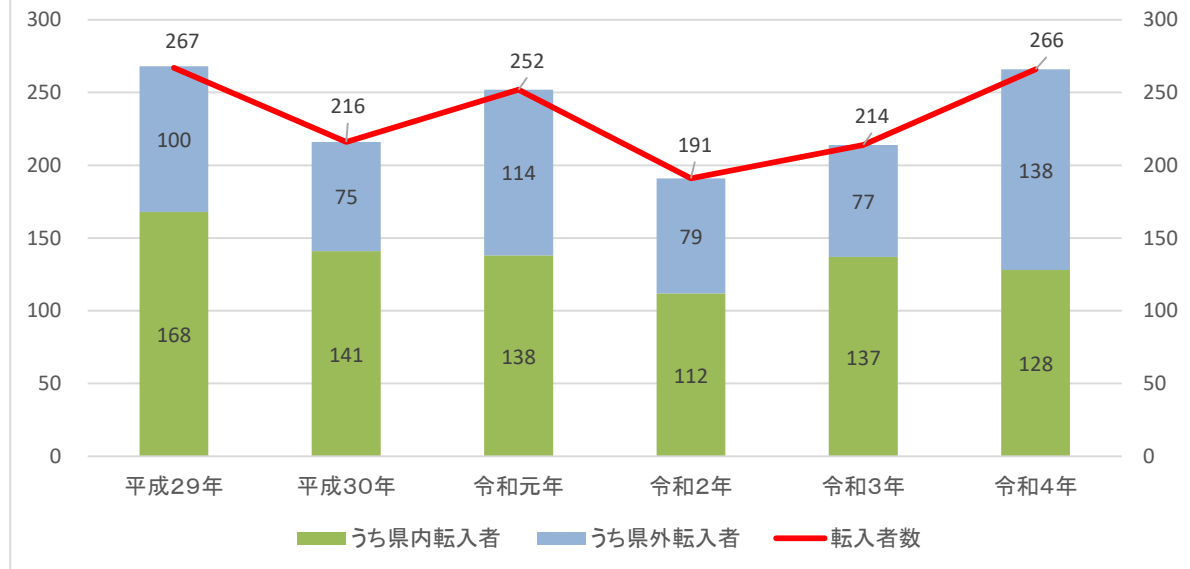
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和3年	令和4年
自然増減数	-70	-98	-91	-84	-65	-96
前年からの増減	9	-28	7	7	19	-31

③社会増減数の推移

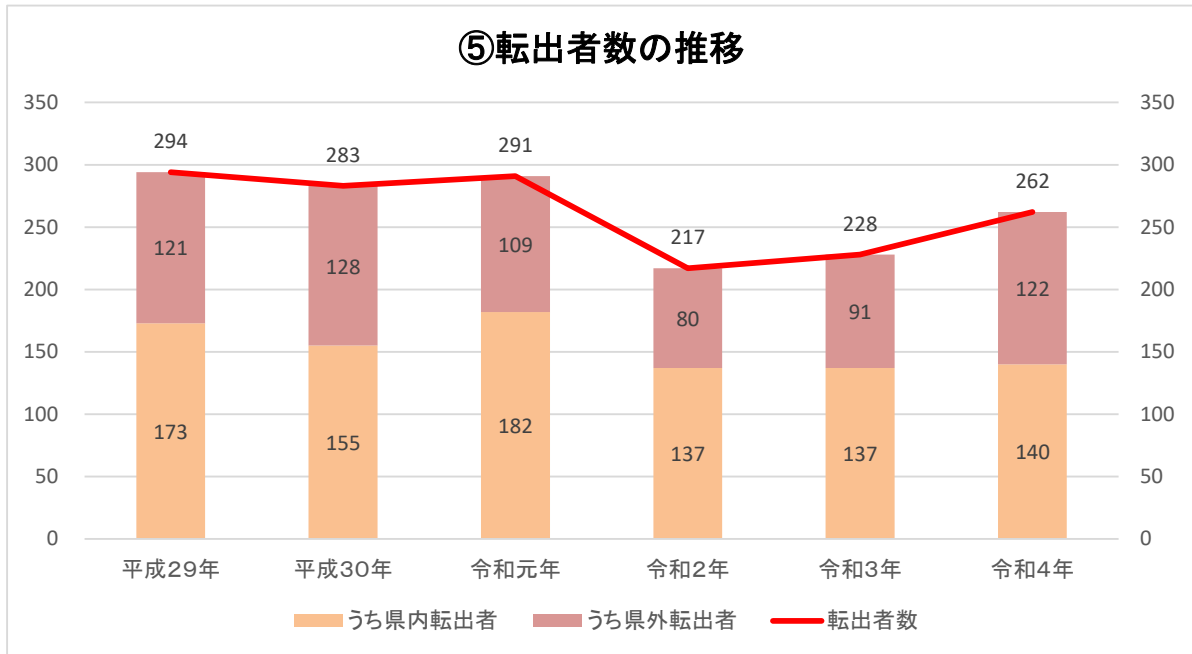


	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
社会増減数	-26	-67	-39	-26	-14	4
前年からの増減	-	-13	-41	28	13	12

④転入者数の推移



	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
転入者数	267	216	252	191	214	266
うち県内転入者	168	141	138	112	137	128
うち県外転入者	100	75	114	79	77	138
前年からの増減	-	13	-51	36	-61	23



	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
転出者数	294	283	291	217	228	262
うち県内転出者	173	155	182	137	137	140
うち県外転出者	121	128	109	80	91	122
前年からの増減	27	-11	8	-74	11	34

⑥令和4年県外転出入者数ランキング (長崎県異動人口調査年間集計結果報告より)

順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
転入者数	福岡県 (20人)	大分県 (17人)	佐賀県 (14人)	東京都 (11人)	神奈川県 (8人) 沖縄県 (8人)	外国 (20人)
転出者数	福岡県 (30人)	佐賀県 (13人)	熊本県 (12人)	愛知県 (8人)	埼玉県 (6人) 東京都 (6人) 神奈川県 (6人)	外国 (9人)

⑦令和4年県内転出入者数ランキング (長崎県異動人口調査年間集計結果報告より)

順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
転入者数	大村市 (35人)	東彼杵郡 (30人)	佐世保市 (25人)	長崎市 (16人)	諫早市 (7人)
転出者数	大村市 (61人)	佐世保市 (23人)	東彼杵郡 (22人)	長崎市 (15人)	五島市 (5人)

⑧令和3年県外転出入者数ランキング (長崎県異動人口調査年間集計結果報告より)

順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
転入者数	福岡県 (30人)	佐賀県 (11人)	愛知県 (7人)	奈良県 (5人)	東京都 (4人) 宮崎県 (4人)	外国 (2人)
転出者数	福岡県 (25人)	佐賀県 (19人)	熊本県 (8人)	東京都 (7人)	鹿児島県 (4人)	外国 (2人)

⑨令和3年県内転出入者数ランキング (長崎県異動人口調査年間集計結果報告より)

順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
転入者数	大村市 (47人)	佐世保市 (27人)	東彼杵郡 (25人)	長崎市 (17人)	西彼杵郡 (6人)
転出者数	大村市 (51人)	佐世保市 (29人)	長崎市 (21人)	諫早市 (9人)	対馬市 (8人) 東彼杵郡 (8人)

⑩令和2年県外転出入者数ランキング (長崎県異動人口調査年間集計結果報告より)

順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
転入者数	福岡県 (14人)	広島県 (9人)	神奈川県 (8人) 佐賀県 (8人)	熊本県 (7人)	埼玉県 (4人) 愛知県 (4人)	外国 (2人)
転出者数	福岡県 (17人) 佐賀県 (17人)	静岡県 (11人)	広島県 (7人)	神奈川県 (5人)	東京都 (4人)	外国 (3人)

⑪令和2年県内転出入者数ランキング

順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
転入者数	佐世保市 (32人)	大村市 (31人)	長崎市 (19人)	東彼杵郡 (16人)	諫早市 (5人)
転出者数	大村市 (56人)	諫早市 (24人)	佐世保市 (19人)	東彼杵郡 (15人)	長崎市 (14人)